◎◎◎佳作

病室を訪ねてくれるあなたへ

吉田勢津子
大阪府・四四・主婦

毎日夕方六時頃になると、少しはにかみながら病室のドアから入ってくるあなた。私はそれを心待ちにするようになりました。足の手術をしてからちょうど三週間。一日もかかさず通ってくれていますね。

おまけに忙しい仕事に加えて、食事の支度、子供の世話、洗たく、息子のお弁当作りまで一手に引き受けてくれて、本当に頭が下がります。

やっと痛みもとれ、松葉づえにも慣れました。日増しに身体も回復してきました。でも足と腰に二つも手術跡。切ったり貼ったり傷だらけです。お医者様はだんなさんに返品されないようにと、ていねいに傷跡をケアーして下さいます。

あなたは傷跡を見せてくれって言うけど、私だってまだ見てないんですよ。何だかこわいのです。見るとさらにショックを受けそうで。帝王切開の跡もいれると、全部で三つ。あなたに本当に申し訳なくて。

四〇を過ぎたけど、私だって女ですもの。身体にこんなにメスが入ったなんて、やはりひけ目を感じます。あんなに元気印だった私がこんな病気になるなんて。健康に全く自信がなくなりました。落ち込んでばかりです。

そんな私を察してか、あなたは冗談を言ってよく私を笑わせてくれますね。あなたが来ると私はわざとわがままを言ってあなたを困らせるけど、本当はとても感謝してるんですよ。ごめんなさい。

今年はあなたこそ、一月のお父さんの死から、仕事上の悩み、息子の二度にわたる骨折と随分精神的なショックが重なり、つらい思いをしてきましたね。でも立派に乗り越えて来ました。そこに思いもかけない私の入院。まさにダブルパンチですね。結婚して一五年、今年は私達夫婦にとって試練の年になりました。そしてあなたのことをこんなに心待ちにしてドキドキするなんて、新婚以来です。

これは結婚後初めてのあなたへの恋文です。

＊私は右足かかとの骨嚢腫という病気で入院しています。留守宅が心配ですが、主人がよくしてくれ、本当に感謝しています。献身的な主人に心をこめて恋文を送ります。